



1. 受動態自体はそれぞれのPartで頻出します。基本的に受動態自体は中学レベルの話であり、be動詞 + p.p.を見て受動態に気づき、訳せれば問題ありません。ただし、無理して日本語も受動態で訳す必要はなく、これについては「英語で受動態が使われる理由」を理解しておくことでスムーズに訳せる。
2. 受動態の問題解法は受動態に限らず、準動詞のところで扱う過去形と過去分詞の判別で必須の知識。また、Part5.6でもこの知識は大活躍するので、しっかりとマスターしておきたい。
3. 受動態を見たら能動態を意識するというのも、表を見たらわかる通り頻出。もはや、be supposed/asked/required/scheduled to ..など、ほぼ熟語として認識している人も多い。とはいえ、それ以外の動詞が出たときに応用が利くように、この考え方は常に持つ必要がある。
4. 受動態の時制はすべてのPartで頻出する。進行形、完了形、助動詞のすべてが頻出する。
5. be動詞以外の受動態は決して頻出はしないが、ぜひ、おさえておきたい。よく出る、get, become, remain + 過去分詞を見たときに受動態と気づけることが大切。
6. 意外にも受動態は、delay・locate・worryの3つしか出ないといってもよい。
7. 「by以外の受動態」や「原形不定詞を受動態にしたら」や「be made from/into/of」など受験英語で定番のポイントはTOEICではほとんど出てこない。